

週日の説教

金 大烈 神父 2011年7月9日(土)

《神様に隠せるものはない ～認めて、神様に委ねましょう～》

もし、皆様の心の中を何もかも分かる人がいたら、皆様はどのような気持ちになりますか。「あの人は、頭がよくて素晴らしい。」と思うのでしょうか。自分よりも詳しく自分の心を読んでしまう人がいたら、その人がどんなに正しくて立派な人でも、たぶん皆様はその人から遠ざかると思います。そうではありませんか。皆様の心の中に、今どのような思いがあるのかを全て見られてしまったら、嫌な気持ちになりますよね。その人がどんなに素晴らしくて、模範的な人でも、自分の心を読む能力があれば、その人と距離を置きたい気持ちになります。「誰に見せても恥ずかしくない心だ。」という自信があれば、誰が心を読んでも構わないと思うでしょう。けれども不幸にして、私たちはそのくらいきれいな心、誰にも隠さずに済む心を持ってはいません。それが人間です。そして、私たちの心を完璧に、私たち自身よりもよく読んでいらっしゃるのは、神様だと習いましたね。ですから私たちは、自分の心を取りすぎている神様と無意識のうちに距離を置こうとしているのかもしれないかもしれません。もし皆様が心の中で、「イエス様、これをしてください。」と祈った時に、「私がそれをしてあげよう。」という実際の声が聞こえたら、皆様は全員気絶すると思います。そうではありませんか。しかし神様ならば、そのくらい私たちの心を全て分っているのです。

けれども私たちの中には、誰にも見せたくない闇のようなものがあります。神様にさえ見せたくない気持ちがあります。その気持ちが、心を開いて神様に近づくことを邪魔しているのではないかと今日思ってみました。

イエス様は、「隠されているもので知られずに済むものはない。」とおっしゃいました。私たちの心の中で何が起きているのか、どんな考えがあるのか、神様は全てご存知なのです。私たちは、逃げようとしても神様からは逃げられないでしょう。だから、方法は一つしかありません。それは、認めることです。「神様、私はこのようなものです。どうすればよいのでしょうか。」と委ねる心が、私たちにとっては一番必要なのだと思います。

神様の前では、自分の心を隠そうとしても隠すことはできません。もし、そのような考えになれば、よくない考えから解放される可能性が大きくなると思います。

ありがとうございました。